

ホメオパシーの 意外な使い方

波動ケア・ホメオパシーメソッド
オンラインサロン8月part2

基本的なホメオパシーの使い方

- 人間の症状に対して使う
- 動物の症状に対して使う
- 予防的に使う
- スピリチュアルに使う（チャクラ対応）
- 体質改善（腸内細菌ノソッド）
- 農業に使う

予防的に使う

- Homeoprophylaxis (ホメオパシー的ワクチン)
 新生児から乳幼児までの通常のワクチンをホメオパシー的に行う
- インフルエンザやコロナなど感染症の予防
 代表的レメディ：Oscillococcinum, Influenzainum (Isopahty)

スピリチュアルに使う（チャクラ対応）

- 別紙参照

体質改善（腸内細菌ノソッド）

- 各チャクラに対応する腸内細菌ノソッドレメディがある
- 腸内細菌レメディを開発したのは、フラワーエッセンスの始まりであるバッチレメディの創始者バッチ博士（Dr. Bach）
- その後、バッチ博士は、7種類の腸内細菌群に合う7種類の薬草を探すが、7種類では足りないことに気づく。今、バッチフラワーレメディは38種類。

腸内細菌ノソッドを使う場合の指標

- 症状に類似性がある時
- レメディーで何の改善も見られない時
- 選択すべきレメディーがはっきりしない時
- いくつかのレメディーが作用したにも関わらず、治癒しない時
- チャクラと関連させて考える時

農業に使う

- 農作物に付く害虫駆除にホメオパシーを使う
- 病気の農作物に使う
- 土壌改良